

平成 15 年度 研究部会の活動報告

部会長：加固正子<sup>1)</sup>

部会員：富川孝子<sup>2)</sup>，杉田 収<sup>3)</sup>，加城貴美子<sup>4)</sup>，吉山直樹<sup>5)</sup>，橋本明浩<sup>6)</sup>，大友康博<sup>7)</sup>

1) 新潟県立看護大学 (小児看護学)，2) 〃 (精神看護学)，3) 〃 (地域看護学)，  
4) 〃 (母性看護学)，5) 〃 (病態学)，6) 〃 (情報科学)，7) 〃 (社会経済学)

A Report of Wide Range Reseachs held in Niigata Reseach Institute of Nursing(NIRIN)

Masako Kako<sup>1)</sup>，Takako Tomikawa<sup>2)</sup>，Osamu Sugita<sup>3)</sup>，Kimiko Kashiro<sup>4)</sup>，

Naoki Yoshiyama<sup>5)</sup>，Akihiro Hashimoto<sup>6)</sup>，Yasuhiro Otomo<sup>7)</sup>

1)Niigata College of Nursing (Child Health Nursing),2) 〃 (Psychiatric Mental Health Nursing) ,  
3) 〃 (Clinical Biochemistry), 4) 〃 (Women's health Nursing), 5) 〃 (Clinical Pathophysiology) ,  
6) 〃 (Information Science), 7) 〃 (Economics-Co-operative Studies)

部会の概況

研究部会は、課題研究の質的水準維持を目的として活動してきたが、部会プロパーの活動は少なく、来年度（平成 16 年度）からのセンター組織ではこれを発展的に解消し、研究活動の独自性は各研究班（グループ）に委任し、プロジェクト的な性格の強化を図る予定である。

平成 15 年度までの研究部会は 4 つの地域課題の研究班で構成されるが、このうち第 4 研究班の実質スタートは平成 15 年 10 月で、初年度にあたる。

第 1 研究班は引き続き本県の豪雪へき地地域の保健医療福祉分野のニーズ（ヘルスケアニーズ）の掘り起こし、自治体と共に問題を解決できる体制を確立すべく活動をおこなってきた。

第 2 研究班は、さまざまな健康問題をかかえる人々とその家族を対象として、「継続看護」を標語として、保健・医療・福祉の連携に必要な条件等を引き続き検討した。

第 3 研究班は、ヘルスケア分野で活躍する専門職の職種間に必須な情報（メタデータ）を公開・共有するウェアハウスを構築する情報システムの開発を目指してきた。

研究部会の課題研究班構成

第 1 研究班：豪雪地帯のヘルスケアニーズに基づく実践の優先度評価に関する開発研究

研究班代表者 吉山直樹

第 2 研究班：継続看護における連携システムの構築

研究班代表者 富川孝子

第 3 研究班：ヘルスケア分野の専門職のためのメタデータウェアハウスの構築

研究班代表者 橋本明浩

第 4 研究班：豪雪地帯における高齢者の居宅での保健医療福祉サービスの効果的提供

研究班代表者 中島紀恵子